

1. 科目名 (単位数)	人体の構造と機能及び疾病 (2単位)	3. 科目番号	GELA1112 GELA1333 GELA1312
2. 授業担当教員	宋 暁鈞		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに意見発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>この講義は、総合社会科学としての医学の側面についても触れ、生活の質 (QOL) を豊かにする保健・医療・福祉・心理のあり方についても学び、福祉専門職者・心理専門職者として要求される最低限の医療、医学の知識の習得を目標とする。さらに、最新の健康情報の検証も行う。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達・老化や日常生活との関係を踏まえて理解する。</li> <li>●生活習慣病とその予防について、健康増進の正しい方策について理解する。</li> <li>●国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要について理解する。</li> <li>●リハビリテーションの概要について理解する。</li> </ul>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。</li> <li>2. 健康・疾病の捉え方について理解する。</li> <li>3. 人の身体構造と心身機能について理解する。</li> <li>4. 疾病や障害の成り立ちおよび回復過程について理解する。</li> <li>5. 公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を理解する。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 様々な健康と疾病の情報について、その是非・真偽について考察する (口頭発表)。</li> <li>2. 講義した内容を、より一層深く理解する為に、毎回の授業終了前に「理解を高める実践問題」を配布して解答する。</li> <li>3. 理解し難い内容について、オフィスアワー時間帯で研究室にて指導を行うこと。</li> </ol>		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 1 医学概論』中央法規		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心身の機能と身体構造を自分の体と日常生活に照らし合わせてできるようになったか。</li> <li>2. 生活習慣病の理解と予防を考察できるようになったか。</li> <li>3. 少子高齢社会におけるリハビリテーションを理解し、必要性を説明できるようになったか。</li> <li>4. 厚労省が推進する高齢者の QOL の基本的な考えを理解できるようになったか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>[授業への積極的参加度、日常の受講態度や学習状況、レポート、期末テスト等を総合して評価する。授業への参加度 30%、レポート 30%、期末テスト 20%、発表能力 20%]</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>少子高齢社会において、養護、保健、福祉専門職者は無論のこと、また教育、保育や臨床心理専門職者においても、保健・医療専門職者等と連携して地域社会の人々が健康で質の高い豊かな生活を送れるように支援することが求められます。そのためには、健康をむしばみ、生活の質を低下させる病気、特に生活習慣病・メタボリックシンドローム、高齢者特有の疾患及び精神疾患などの知識を自ら学び取る必要があります。メディアが報じるニュースの中でも日常的に取り上げられているので、将来の専門職者の立場からの問題を自ら発見し、自ら解決する目で見られるようにしましょう。</p> <p>現場にあつては、ヘルスケアプロフェッショナルチームの一員としての能力を開発する練習を授業でのグループディスカッション及びレポート作成・発表を通して出来る様にしましょう。又、ターミナルケアや健康寿命と介護予防の問題にも目を向けられるようになりましょう。</p>		
13. オフィスアワー	授業のない時間帯であれば、何時でも研究室で質問を受ける。どんな事でも気軽に来て相談することができる。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 人の身体と精神の成長・発達及び老化	事前学習	学習ノートを準備し、シラバスを熟読してくる。
		事後学習	「実践問題①」を再び理解しながら、身体と精神の発達及び老化をノートにまとめる。
第2回	人体の構造と機能Ⅰ： (人体部位の名称と機能、循環器系統、呼吸器系統)	事前学習	人体部位の名称をノートに記載しておく。
		事後学習	「実践問題②」を再び理解しながら、循環器・呼吸器の構造と機能をノートにまとめる。
第3回	人体の構造と機能Ⅱ： (消化器系統、泌尿・生殖器系統)	事前学習	消化器と泌尿・生殖器とは？ノートに調べておく。
		事後学習	「実践問題③」を再び理解しながら、消化器と泌尿器の構造と機能をノートにまとめる。
第4回	人体の構造と機能Ⅲ： (骨・筋・関節及び感覚器系統)	事前学習	運動器系統とは？ノートに調べておく。
		事後学習	「実践問題④」を再び理解しながら、運動器と感覚器の構造と機能をノートにまとめる。

第5回	人体の構造と機能Ⅳ： (神経系統、内分泌系統)	事前学習	神経系、内分泌系とは？ノートに調べておく。
		事後学習	「実践問題⑤」を再び理解しながら、神経と内分泌系の構造と機能をノートにまとめる。
第6回	人体の疾病と障害Ⅰ： (生活習慣病、虚血性心疾患、脳卒中)	事前学習	生活習慣病とは？ノートに調べておく。
		事後学習	「実践問題⑥」を再び理解しながら、生活習慣病、心脳の血管性疾患をノートにまとめる。
第7回	人体の疾病と障害Ⅱ： (先天性疾患、周産期障害、脳性麻痺)	事前学習	遺伝子、染色体と先天性疾患とは？ノートに調べておく。
		事後学習	「実践問題⑦」を再び理解しながら、先天性疾患と脳性麻痺をノートにまとめる。
第8回	人体の疾病と障害Ⅲ： (感染症)	事前学習	感染症の定義と感染経路をノートに記載しておく。
		事後学習	「実践問題⑧」を再び理解しながら、感染症の対策をノートにまとめる。
第9回	人体の疾病と障害Ⅳ： (認知症の分類・鑑別診断)	事前学習	認知症とは？ノートに調べておく
		事後学習	「実践問題⑨」を再び理解しながら、認知性疾患に対する理解をノートにまとめる。
第10回	人体の疾病と障害Ⅴ： (精神障害、高次脳機能障害)	事前学習	精神障害とは？ノートに調べておく
		事後学習	「実践問題⑩」を再び理解しながら、精神障害と高次脳機能障害者に対する理解をノートにまとめる。
第11回	人体の疾病と障害Ⅵ： (知的障害・発達障害)	事前学習	発達障害とは？ノートに調べておく。
		事後学習	「実践問題⑪」を再び理解しながら、知的障害と発達障害をノートにまとめる。
第12回	人体の疾病と障害Ⅶ： (免疫とアレルギー)	事前学習	免疫とは？事前に配布した資料を予習しておく。
		事後学習	「実践問題⑫」を再び理解しながら、免疫とアレルギーの相違をノートにまとめる。
第13回	人体の疾病と障害Ⅷ： (神経性疾患と難病)	事前学習	難病とは？ノートに調べておく。
		事後学習	「実践問題⑬」を再び理解しながら、難病の特徴をノートにまとめる。
第14回	健康の概念とプライマリヘルスケア・リハビリテーション	事前学習	健康とリハビリテーションとは？ノートに調べておく。
		事後学習	実践問題⑭」を再び理解しながら、リハビリテーションにおける専門職やチームアプローチをノートにまとめる
第15回	総合まとめ	事前学習	授業を振り返り、そのポイントを自ら考えてノートにまとめる。
		事後学習	期末試験の予備問題を解く。
期末試験			